

平成28年10月23日

## 第2回 新木「地域会議」

- 1 開催日時 平成28年10月23日（日） 9：30～
- 2 開催場所 新木近隣センター 多目的ホール
- 3 議 事 司会進行 新木地域会議事務局長
  - (1) 開会挨拶 事務局長 9：30
  - (2) 自己紹介（団体紹介） 9：35
  - (3) 我孫子市市民活動支援課 挨拶 9：45  
市民生活部 市民活動支援課 課長
  - (4) 意見交換 9：50

ア 特別講演  
「防災・防犯について」  
元東京小金井消防署長  
我孫子市吾妻台在住  
+講演について質疑応答

イ 子供の安全について 10：40

ウ 高齢者の安全について 11：00  
見守りネットワークからの活動状況

エ 防災・防犯プロジェクトチームの結成について 11：20

（押し付けない・理解を分け合う・聞く耳を持つを基本に発言をいただき {見える化} を図りたいと思います。

(5) 質 疑 11 : 40

(6) 閉 会 11 : 55

4 出席者 別紙の通り

5 次回予定日 平成29年 2月26日(日) 9 : 30~12 : 00

メモ欄

# 防災から地域の活性化を

## 1. 講演内容

自助、共助、公助について我孫子市の場合を話しますと、我孫子市自体、金がない、何もない中で、やってもらうのが自助と共助で、こういう会議が成り立ってきたと思う。何回会議をやっても、実行して試験的になにかやっていると、良い所も、悪い所も出てこないの、それを進める為にお話をしたい。私達吾妻台も自治会があって、防災会があって市にお金を出してもらって色々なものを集めたが、一か月に一回防災会をやって、こない人もおり、毎回来る人もおって、器具に触って、大丈夫だねという形でやっている。これがお互いの顔が見える関係になってくる。これを、自治会だけでなくもっと広い意味で、自治会同士が広げていく事によって、小学校とか中学校とかの人たちとのふれあいも出てくると思う。

鳥取の倉吉の地震で、皆さん気が付いた事があると思うが、けが人を例にとってみると、今回は少ないこともあって、ちょっとした事でもニュースの中で取り上げられているが、あわてて立ち上がって、どこかにぶつけてけがして救急車で運ばれたとかのニュースが多かった。防災で最初に守るのが、家具が動かないとかそういう基本的でなんともないことが非常に大切なんです。我孫子の場合、成田線を境に両側がみずうみに囲まれている。そういう中で住んでいると利根川が決壊した場合、大雨が降って大水が出た場合とか、身近な危険がひそんでいる。自助、共助、公助の中でも、市が、もっと金がなければ、なくてもできる活動を広げていく必要があると思う。防災は、なにかを備えなければできないのではなく、吾妻台では、50万円戴いて、プラスアルファは、ジャッキ等自治会の中での寄付等で賄ったわけで、一番のポイントは、身近なところでこういうものをつくって、何時でも誰でも使えるようにして、月に一回はきて、点検をして戴ければ、鳥取や熊本で地震があった時に、その時間に合わせて、何人か集まって、その器具に触れる事もいい訓練だと思う。非常に大事なことである。

この間停電があった、お年寄りの一人暮らしの人が、真っ暗で明かりを探しているとき、ちょっと声をかけてやれば、安否確認の訓練になったり、そういう身近に簡単にできるものからやっていくのが今日の私の提案です。

地域の問題でどこでもぶつかるのが、高齢化である

高齢者は自宅の植木が茂ったり、草取りができなくなっている。この場合どうするか、防災でいえば一番命を守ってくれる、水とか食料という前に自分の家が安全で、命を守ってくれるのが基本である。今回の地震のように、あわてて飛び出したりしないで自分の体を守れるのは、耐震化であるが、転倒防止、物が動かないようにするとか、金をかけなくても出来る事（発砲スチロールを緩衝剤する等）を提案してあげる。防災予算があれば留め具を買って一人暮らしの人にやってあげる事が必要ではないかと思う。

高齢者は買い物や、通院が難しくなっている。地域との交流も少なく孤立化の傾向になっている、若い人たちとの交流が必要とおもう。

消防団も希望者が少ないとの問題がある、高齢化して、入る人が少ない。いろいろ問題があると思うが、江東区で調査したところでは、中学校を卒業してから地元に戻ってくるの

は六割くらいあった。我孫子市の場合はわからないが、自分の町が魅力的であれば戻ってくる人も多いと思う。

又、利根川が決壊した場合水害発生の危険度が高い、まつりが少ない、空き家が多くなっているとか新木地区の問題がある。どこでも同じ問題が起こっている、

防災から地域の活性化の為には、案として、七つあげてみた。

ご近所とか、4～5人の人がお助け隊を作ってやっていく事がいいとおもう。協力してもしなくてもいいからご近所をお助けしますよという形で作って、基本は地域の中に、防災会を作って、意識を高めて、ご近所の安否確認しますよという中からお助け隊という柔らかい名前をつけて、作ってやっていったらいいと思う、できる範囲でやりましょう。枝おろしができない所に対して、自治会で年1回は草取り等をやる時に枝おろし等を作ってあげる、それを防災訓練としてやってもいいと思う。

小・中学校に防災クラブをつくって技術を身に着ける。東京でやったのだが、中学校の3年間在籍した場合、3年の間に、救急、救助、消火、火の用心隊みたいのを作ってやると、地元に戻ってくるから、消防団につながっていく。こういう形でやったのだが、在学中に自分の命を大切にすることをふくめて、救急は止血、骨折、心臓マッサージの三つを訓練した。自分を守ることもできるし、家族や、周りのほかの人も守れる。

高校とか、大学に行ったらボランティアの形でもっと広げてもらう。そういった人が地元に戻ってきて、就職したい場合は、就職の便宜を市役所とか消防署とか地元の企業が積極的に受け入れてくれば、子供達や消防団に入ってくれる人が増えてくるとおもう。消防団の人たちがこういうものを、学校に行って教えてくれるとか、年末年始の火の用心なども子供達と一緒に街を歩くことが、一緒に子供達と交流できると思う。

次に防災組織作りだが、どこでも一緒だが、物はあって、人をつくって、組織は作ったが、はりこのトラでほとんど活動していない。そのうちにうやむやになって器具も使えなくなってしまう。だから、月に一回でもいいので、そこに集まって器具を点検して使えるようにする。これが大事なことである。その人たちが勉強する機会はどうかという、人に教えてあげる事である。学校やいろいろなところで教えてあげる。子供がボールに当たり心臓が止まっても、即心臓マッサージをやることで生き返る事例が多い。スポーツをするときに消防団の人たちから指導を受けたりして交流を図っていく。月に自分たちの目標を作って自分たちの目標はなーにという事で進める事によって活性化が図られると思う。

また、立ち寄り所で防災塾を開校してはどうか。子供達もそこに遊びに行ける。しかし自治会館など車いすで入れない所が多い、市や自分たちで直して、誰でも入れて、だれでも来られる所を作ってあげる事が大事である。

自治会から消防団を出す。

今は、押しつけてやっていると思われるが、若い消防団員に聞いたところでは、何か自分に得る事があれば、報奨金があれば続けられるといていた。

各自治会で、防災訓練で市から出る手当てをプールして、消防団員としてでている人に訓練に行ったら、報奨金としてだすとか、何年も続けるのではなく、好きな人は別にして、期間は3年ぐらいでやっていけばいいのではないか。

防災訓練については、学校を基地にして、行事と一緒に避難所対応訓練をする。学校の校庭を使って、テントをする。そうすれば、交流と防災訓練ができるのかと思う。消防車等もきて展示もして、さわったりして、遊びの中で訓練をする。

運動会や駅伝を利用した防災技術展だが、こういう運動会や、駅伝等の行事の時に合わせて、防災の訓練をやる事で子供たちに興味を持ってもらう。

日本での災害が多いので、運動会だけ、防犯だけとかを分けなくてやっていく、こまめにやっていく運動と一自治会だけでなく連合の形でやっていく。

この間、市の防災訓練に行ったが、金をかけた見せる訓練は他ではやっていない。金をかけるなら住民の人たちが、訓練をやった時に身近に特化できる訓練を消防署とか防災課とがバックアップして積極的に応援してやってもらう。

金がなくても、日曜に市や消防署とかが人を出して教えてくれると人が集まる。

自助、共助、公助をお互い押し付けなくて、自分たちは自分たちでやる、市は市でちゃんと動いてもらう、お互いの連携を含めて訓練の場でやっていく事が重要だと思う

#### 質疑応答

- ・自主防災組織がある、役員が役職に指定しているが具体的に動いていない。  
我孫子の自治会長サミットがあつて、自治会の組織と防災の組織とは別組織にすべきだとの意見があつて、半数以上が別組織になっていた、先ほどのお話でも、それが前提だと思った。私も別組織にしなければいけないかなと思ったしだいです。
- ・防災会をつくったらどうか。仲間を集めて、防災会を立ち上げ、自治会を1年やられたら、後、防災会を3年間ぐらいやられたらいかが、どんどん仲間を引き込んでやられたらいいと思う。
- ・防災は意識を持つことが大事で、防災意識を高めて継続していく事が大事と思う。自治会としては、人を集めた時に防災意識を高めるイベントをやるのが、いいのだと思う。防災意識を高める事が唯一の手段だと思う。
- ・防災訓練を地域の人たちと一緒に避難訓練をやる時にここに避難したらどうなるのか、父兄に問いかける事が必要だと思う。子供達と父兄も一緒に参画してやる事が必要だ。
- ・支援学校で昨年一昨年と吾妻台に協力してもらい防災訓練をして、普段気づかないことがたくさんあるのが分かった。学校に足場を置いていただくといいのではないかと、吾妻台の人に学校に来て戴いて学校のことも理解していただけた。防災意識を高めるのは大変だが、具体的なものが、残せた。廊下に非常のときに我々がちょっと使える道具、バンソウコ等を袋に詰めて何か所かにぶらさげて、何があるかわかるようにして、使えるようにした。学校に基本を置いて利用していただけることもあると思う。

- 湖北社協は、学校と一緒にになって3年間福祉教育を進めている。学校と一緒に行事を進めている。今後も後継者を育てるためにも学校と地域とがタイアップして、連携して、色々な行事をやるのが活性化につながると思う。
- 消火器をそなえた。これを処理するときにお金がかかる。買い替える時に又金がかかる、それが消火器を再度備える時に躊躇する事になる。
- 防災訓練をするとき、火を燃して消火訓練をする時に自分の消火器をもってくと詰替えをしてあげることがある。  
自治会の中に、自治会で50メートル毎に消火器を備える。3本あれば消火できると思うが、火事の時それを持ち寄って消化する。個人では、小さい消火器をもって、大きな消火器は自治会で備える事が一つの方法ではないか。  
これは、公的な機関がやることだが、利根川などから、大きな水をもって来るために、事前にパイプを設備するとか、貯水槽を作り、誰でも何時でも使えるようにする事が必要だ。